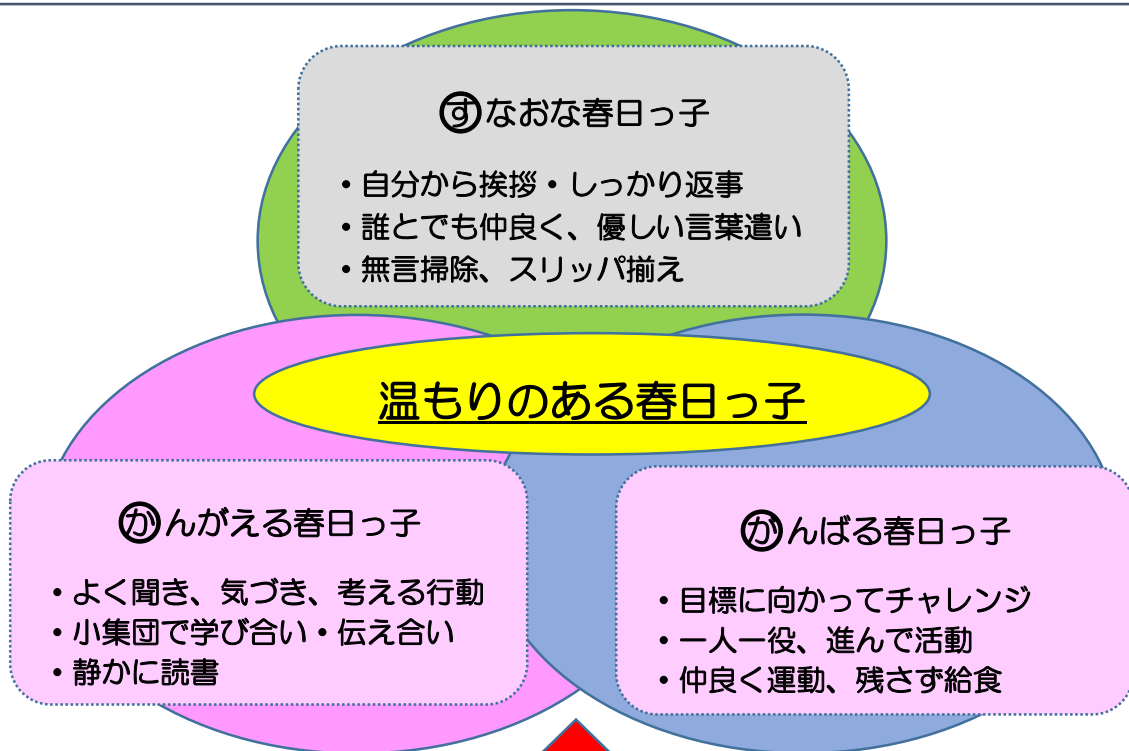


令和 2 年度教育課程について（届出）

1 学校の教育目標

自分から かんがえ なおに かんばる 春日っ子の育成～温もり～



すべての春日っ子が安全に、安心して生き生きと活動する温もりのある学校

《 3つの教師像 》～まなび～「チーム春日」「継続と徹底」

- ① 目標と課題を共有し、共通実践に基づいた教育活動を展開する教師
- ② 「啐啄同時」の精神で春日っ子を見守り、褒め、励ます教師
～即日対応～
- ③ 「教育のプロ」としての自覚と誇りをもち、授業で勝負する教師
～「できる・わかる・参加する」授業づくり～

《 地域との連携 》 ～育てる～ 地域の教育力、見守り、地域への参画等

《 家庭との連携 》 ～しつけ～ 早寝早起き、家庭学習、手伝い等

家庭（保護者）で「しつけ」、学校で「学び」、地域で「育てる」

2 本校の教育の特色

か ながえる子

- ・よく聞き、気づき、考える行動
- ・小集団の学び合い・伝え合い
- ・静かに読書

す なおな子

- ・自分から挨拶・しっかり返事
- ・誰とでも仲良く、優しい言葉遣い
- ・無言掃除・スリッパ揃え

が ンばる子

- ・目標に向かってあきらめない
- ・一人一役、進んで活動
- ・仲良く運動、残さず給食

基礎学力の定着と教育活動の充実を図る

- 学習や集会等の始めと終わりに一斉に「立腰」を行い、物事に集中する心と正しい姿勢を身に付けさせる。
- スキルタイムを充実させ、基本的な学習訓練を行い、学習習慣を身に付けさせる。
- 国語科の授業研究に全教職員で取り組み、全校で共通した授業の構造化に努め、児童が主体的に学ぶ授業を展開し、学力の向上をめざす。
- 家庭学習の充実のために、年5回の「春日っ子ふりかえり表」を活用した振り返り週間を設定し、結果を集計、保護者や児童に改善点を示す。
- 読書活動を充実させ、児童の情操面を耕し豊かにするとともに、読書から得る知識を増やす。

互いに思いやりの心を通わせ、温もりのある学校づくりをめざす

- 道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間との連携を図りながら、指導内容の充実・改善を図る。
- 毎月の「生活のめあて」の徹底を図り、節度ある生活態度の定着に資する。特に、自分から挨拶やトイレのスリッパ揃え等を通して、気づき、行動できる児童を育成する。
- 生徒指導協議会・教育相談会で情報交換し、児童理解を深め、個々のよさを認め合う学級づくりの充実に生かす。

目標に向かってあきらめない逞しい心と体を育む

- 常に、目標を持たせ、失敗を恐れずチャレンジすることを誉め励ましながらいましい心と体を育む。
- 交流活動や体験活動を通して、自ら学び、豊かな人間性や社会性、たくましい実践力を持ち、心身共に健やかな児童を育てる。
- 学級や学校生活の充実と向上を目指し、児童が主体的に取り組む係活動や委員会活動を通して、自主的・実践的な力を育む。

開かれた学校を目指し、地域の教育力を生かした教育活動を取り入れ、郷土を愛する心と体を育む

- 学校教育目標に基づいて学校経営案を作成し、保護者に学校ホームページで公開する。
- 授業参観、学校行事等の教育活動や児童の様子を学校ホームページ等で公開し、学校への評価を今後の運営に生かす。
- 月に1度の学年主任会や職員会議、運営委員会、そして、学校評価等を通して、実践を踏まえた反省のもと、常に改善を加えながら信頼される学校づくりを行う。
- 地域との連携を図り、地域の教育力（人物・歴史・自然・文化等）を活かした豊かな教育活動を教育課程に組み入れ、「志」を高める教育の基盤となる「郷土を愛する心」を育む。
- 児童の育ちと学びを保障するために、児童の情報を交換しながら就学前・小学校・中学校間の連携を促進する。

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点

できる・わかる・参加する授業づくりに努め、よく聞き、しっかり考える児童の育成を目指す

- 基本的な学習習慣や学習規律を身に付けさせるとともに、「子どもが輝く春日っ子授業スタイル」を共通理解して、教材・指導方法の研究を深め、わかる授業の実践に努め、学習意欲を喚起し、学力向上を目指す。【①課題把握 ②自力解決 ③学び合い(小集団活動, 全体活動)④ふりかえり】
- 全校朝の読書タイム(読書)を週1回実施し、読書習慣を身につけさせるとともに読書で疑似体験をしたり知識を増やしたりする。また、図書館司書と担任とが協力して、たくさんの本に親しむようにする。
- 火曜日の朝を算数科、金曜日の朝を国語科スキルタイムとし、15分間を3分割しテンポよく声を出してフラッシュカードの問題や音読に取り組む。朝一番にリズムよく楽しく声を出して活動することで脳を活性化させ学習の心構えを付けさせる。
また、スキルタイムの充実のためのフラッシュカードやワークシートを集約・一括管理・共有財産化し、活用しやすくする。
- 児童一人一人が学習中に「自分の思いや考えを言葉で表現する力の育成」「発表を聞いて、助言や称賛できる雰囲気づくり」に力を入れる。また、話し合い活動等を通して、他者の考えと比較したり、自分の考えを見直したりすることで、深い学びの実現を目指す。
- 児童が学びたい、できるようになりたいと思う思考力・表現力を高めたり、児童の自尊感情を高めたりすることで授業の活性化を図り、学力向上を目指す。
- 土曜授業等を利用し、各学級5～6分の音読や朗読、合唱などみんなで声を出し一つの作品を作り上げる活動の成果を全校の前で発表する。声を出して表現する楽しさを味わうと共にスキルタイムの意欲を持続させる。

優しい言葉遣いで誰とでも仲よくできる、温もりのある学級・学校づくりを目指す

- 児童理解に努め、きめ細かな指導に資するよう生徒指導協議会・教育相談会で情報交換を行い個々のよさを認め合う学級経営の充実に生かす。
教育相談会の初めの時間を個別の支援計画を記入する時間にあてる。(担任だけでなく級外も含めて気になる子、支援の必要な子の継続的な指導に資する)
- 生徒指導、教育相談、特別支援教育について、全教職員の共通理解に基づく教育活動を展開していく。学校の生活習慣では、「自分から挨拶、やさしい言葉遣い、無言そうじ」「進んで活動、なかよく運動、残さず給食」を重点項目とする。
- 毎月「第2木曜日」を「いじめ・いのちを考える日」とし、内容に応じて全校放送や集会を行い、児童の温もりの心を培う。
- 毎月「第3木曜日」と「第4木曜日」を「なかよしタイム」とし、縦割り班遊びを通して、友達づくりなど温もりの心を体感させる。

家庭・地域との連携を図り、安全に安心して生き生きと活動できる学校づくりを目指す

- 家庭や地域、「春日まちづくり協議会」との連携を図り、地域の教育力「ひと・もの・こと」を生かした学習活動を展開し、児童の豊かな学びを充実させる。窓口を春日公民館にお願いし、地域連携活動一覧表をもとにしながら新たな取組を模索して、今年度も更なる連携を進める。
- 学校経営方針を作成し、PTA総会・学校HP等で保護者に説明し、協力・理解を得る。また家庭や地域への学校だより『啐啄同時～温もり～』を発行する。
- 学校・学年行事等の教育活動の状況や児童の様子を学校だよりや学校HP等で知らせ、学校への興味・関心を高めるとともに、学校評価による改善を明確化させる。
- 保護者・地域と協力したボランティア活動(あいさつ運動やアルミ缶回収)を展開する。
- 「春日っ子振り返り表」に取り組み、家庭での学習や生活習慣の向上を目指す。「朝ご飯」「テレビ・ゲーム」「家庭学習」「お手伝い」「睡眠」等で子どもの学習や生活を振り返らせ、その結果を学校・学年・学級たより等で保護者に報告し、学校、家庭、地域との共通理解を図りながら学習や生活習慣の確立に向けて連携・協力を行う。

(2)佐賀市の特色ある取組について

①幼保小中連携の取組

1 幼保小連携

(1) 幼保小連携会議の実施

- 年度当初と年度末の2回、本校と春日保育園の職員が園児の実態等について話し合う。なお、本校入学園児の多い、ロザリオ幼稚園並びに保育園ひなた村自然塾とも必要に応じて情報交換を行う。
- 相互授業参観（夏休みの園訪問、幼・保からの「こどもの教育を考える日」の参観）を実施。

(2) ソフトプログラム「わくわく」の活用

- 幼稚園・保育園から小学校へ円滑な移行ができるように、ソフトプログラムを参考にした授業づくりを行う。

(3) 新入学児童の学校体験（春日っ子ジュニアを迎えよう・おもちゃ祭りをしよう）

- 校区内の春日保育園児を対象に小学校の雰囲気味わわせることを目的として行う。
- 1・2年生と春日保育園園児との交流活動を計画・実践する。
- 気になる子の情報交換を行い、交流活動中の参観を通して実態把握に努める。

2 小中連携教育

(1) 各種部会の活用

- 大和中校区小中連携研究会で、生徒指導・不登校支援、学力向上、特別支援、人権・同和教育の4部会に分かれ、四小中学校間の指導や生活などの段差を埋め、中1ギャップ解消をめざす。（必要に応じ適宜開催）
- 小6担任、養護教諭等と中学校職員とで児童の情報交換を行い、学級編制の際の参考とする。

(2) 相互授業参観の実施

- 相互授業参観を行い、児童の成長を見守ると同時に、児童のそれぞれの段階における指導方法について理解を深め、日常の指導に活かす。

(3) 体験入学等の実施

- 夏季休業中に大和中学校で体験入学を行い、授業や部活動を体験することで、中学校生活に希望を持たせたり中学校の先生と関わりを持たせたりする。
- 大和中の生徒が本校を訪れ6年生対象の「ようこそ先輩」を行う。中学校生活のプレゼンテーションや質疑を通して、中学校生活に希望を持たせたり不安を取り除いたりする。

3 小小連携の実施

体験入学の際に、校区内の小学校（本校、春日北小、川上小）で小学校相互の交流活動を行い、進学後の人間関係を円滑にする。6年生の学年末には、3校（川上小、春日北小、春日小）共通の問題集を準備し、入学後大和中学校に提出することで、共通した基礎学力の補充を行う。

②「いじめ・いのちを考える日」の取組

1 アンケートの活用

毎月末に学校生活アンケート「すっきりニコニコアンケート」を実施し、結果を学級経営・生徒指導・教育相談に活用し連絡会等で情報を共有する。（いじめ・対人関係・気になる子）

2 集会での取組

年間計画を立て、毎月第2木曜日の朝の時間をいじめやいのちについて全校で考える場とする。集会の担当を学年担任の輪番制とし、児童が様々な価値に触れることができる様にする。また、内容によっては1校時目の道徳の時間と併せて60分間で行う。

3 日常生活での取組

- ①「いじめ・いのちを考える日」の取組と関連させ、外部講師を活用しながら人権教室を実施する。
- ②命の大切さや仲のよい友だち関係を構築していくことについて道徳や学級活動で取り上げる。
- ③レインボー作戦を全校に呼びかけ、いじめの根絶を目指す。
- ④「いいところみつけ」を行い、自尊関係を高め、お互いのいいところを見つける。

4 家庭や地域との連携

学校ホームページに取組の様子を掲載し、家庭や地域と連携を図る。

③市民性を育む取組

春日校区まちづくり協議会の一つの「子ども育成部会」では、地域の大人が子どもたちの育成に係わっていかうという取組が計画されている。その子ども育成部会や民生児童委員会などと連携しながら、地域の方をゲストティーチャーとし、地域連携担当者（主幹教諭）のコーディネートのもと、「ひと」「もの」「こと」との出会いの場を設定し取り組む。また、キャリア教育と「総合的な学習の時間（はばたき）」の取組を関連づけ、教育活動全体を通し市民性を育む。

1 行事や活動での取組

- (1) 「春日っ子ワクワク祭り」や校区の中での活動のような学校の枠を離れ、保護者や地域の方々、見学先で出会う方々との関わりを通して、地域社会の一員であることの自覚を促す。
- (2) 地域の人材をゲストティーチャーとして、授業や学校行事に積極的に活用し、地域の方と子どもとの交流を図る。

2 活動について

- (1) 各学年の活動（各学年担任）

- 全学年：交通安全指導【警察官や交通安全指導員】 お話し会での読み聞かせ【地域ボランティア】
- 1年生生活：畑を借りて野菜づくり【地域の高齢者】昔遊び体験【民生・児童委員】
- 2年生生活：町探検【商店・役場・交番等の公共施設】畑を借りて高校生と野菜作りと収穫【高志館高】
- 3年生総合：大和太鼓【大和太鼓指導者】、肥前国庁跡見学【市文化振興課】
社会：昔の人々のくらしを知ろう【春日民生委員・老人会・博物館学ミュージアムキャラバン】
スーパーマーケット見学【マックスバリュウ】、学校の周り見学
算数：そろばんの指導【珠算連盟】
道徳：思春期教室【助産師】
- 4年生社会：水ものがたり館、環境センター、水道局、消防署など見学（ふるさと支援事業を活用）
総合：ロザリオの園での交流訪問
- 5年生総合：キッズマート【春日っ子ワクワク祭りの模擬店・イベント店にキッズマートで参加する】
6年生に向かって【6年生・下級生・地域の人へ】家庭科で実技【地域ボランティア】
- 6年生社会：東名遺跡の前講座、吉野ヶ里遺跡見学、大隈重記念館・佐野常民記念館・三重津海軍所跡
県立博物館等を見学（ふるさと支援事業を活用）絵付けマイスターによる授業、
家庭科で実技【地域ボランティア】
- クラブ活動でのゲスト講師による活動（ソフトボール・手芸・茶道クラブ）

- (2) 日常の自主的な行動

- 学校の外で、自分にできることは何かを考えさせ、地域や社会に発信する。
- 校内の委員会による日常の美化活動等に取り組ませる。

- (3) 「子ども育成部会」や公民館主催事業への参加の促し

- 通学合宿や野菜づくりや子どもみこしへの参加、「春日の郷ふるさと祭り」へのボランティア参加。
- 公民館館長「カッチャン」らによる全校朝会での募集の呼びかけ。

- (4) 役割と責任の自覚の場

- 意図的に社会の一員であることを意識できる場を設定する。
- 4年生総合：1/2成人式を開く。

- (5) それぞれの活動を行う際には、児童が企画できる場を設定し主体的な活動を促す。

④「土曜授業」の取組

1 実施日

佐賀市一斉に6月、9月、10月、12月の第1土曜日、4日間を土曜授業の日として午前中3時間、年間12時間の授業を行う。

2 内容

9月（5・6年生）、10月（3・4年生）、12月（1・2年生）は3時間を1.5時間ずつに分け、2学年ずつ「PTA親子ふれあい学級の時間」とする。6月は子どもの教育を考える日～佐賀市一斉フリー参観デー～として地域に向けて、授業の様子等を公開する。本校の課題である「基礎学力の定着」に向け、補充・発展の学習にも取り組む。

(3) 指導の重点7項目

①「いのち」を守る教育の充実(安心・安全な学校づくり)

1 心の教育の充実

(1) 道徳教育指導の重点

- 自分の生き方を深く見つけ、他との関わりの中でよりよく生きていこうとする心豊かな児童の育成を図る。
- 規範意識を高め、全体を見る習慣を養う。

(2) 各学年の重点目標

- 日常生活や学習の基盤となる道徳性の指導や感性に働きかける指導を重視する。(低学年)
- 体験や人間関係の広がり配慮した指導を重視する。(中学年)
- 自分らしさを発揮しつつ、他者との関わりに関心を持ち、安心した学校生活を送れるようにする。(高学年)

(3) 道徳の時間

- 春日小の道徳の全体計画を元に、各学年の年間計画を作成し、一人一人の児童が道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成できるようにする。
- 互いに思いやりの心を通わせ、支持的風土を持つ学級作りをめざす。

(4) その他の指導

- 家庭や地域との連携を密にし、地域人材(人物・歴史・自然・文化等)を生かした体験的活動を取り入れ、郷土を愛する心を育むとともに正しい判断力、自主的な実践力を持つ心身ともに健やかな児童の育成を図る。
- 授業参観やフリー参観デーに保護者や地域の方々に道徳の授業を公開する「ふれあい道徳」を行う。
- 「平和集会」「人権教育」「いじめいのちを考える日」の取組と関連させながら、教育活動全体を通して、正しく判断し行動する心豊かな児童の育成を図る。

2 安全教育の充実

(1) 児童の安全確保

- 学期初めの交通指導を行う。
- 交通安全教室による安全指導を実施する。
- 避難訓練を実施する。(地震・火災、不審者)
- 児童虐待防止研修を実施する。

②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(学力向上)

1 「主体的な学び」の視点から

- (1) 見通しをもって粘り強く取り組めるよう、解決意欲や必要感をもたせるような学習課題を工夫する。
- (2) 学習の終末に振り返りの時間を設け、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

2 「対話的な学び」の視点から

- (1) 個々の考えを広げたり深めたりできるよう、意図的な対話活動を設定し、充実させる。

3 「深い学び」の視点から

- (1) 学習のどこで教師が教え、どこで児童が考えるかを明確にした単元構成を工夫する。
- (2) 知識を関連付けたり、考えを形成したり、解決策を見出したりするために、自分の考えを表現する(書く)活動の場を設定する。

③特別支援教育の充実

教育相談会を月単位で位置づける。教育相談会を個別の支援計画を記入する時間や生活指導員の支援ノートを参照する時間をとる。配慮や支援の必要な子の情報は随時共通理解を図り、個に応じた指導・支援を充実させる。

1 特別支援教育重点項目

- (1) 個別の支援を必要とする児童をはじめ全校児童が安心して過ごせるように授業のUD化（基礎的環境の整備）や合理的配慮に努め、全職員で特別支援教育を推進する。UD化の具体例として、授業で使うチョークの色の指定（主に白と黄色を使う）や教室前面掲示物を必要最小限にする等を行っている。
- (2) 特別支援コーディネーターを中心に校内支援委員会を開き、関係機関との連携を密にし、個に応じた支援の工夫を検討する。
- (3) 保護者と情報交換をし、個別の支援計画を短期・長期の視点から作成する。
- (4) 全校児童（集会他）や保護者（新入学説明会他）の、特性のある児童に対する理解を深めるために情報発信を行い、啓発の機会を設ける。
- (5) 通常学級の児童との交流活動を通して、互いに理解し合う場を設定する。
- (6) 個別の支援を必要としている児童が、安心して学校や学級にすることができるように、児童の受容的な態度がベースにある雰囲気づくりに努める。
- (7) LD・ADHD・自閉症スペクトラムなどの発達障害や集団不適応などの傾向を持つ児童への支援のあり方について、職員研修等で共通理解を深め、具体的な支援を行う。
- (8) 個別の支援を必要とする児童のために、支援学級担任と通常学級担任、それに生活指導員等との情報交換会を学期ごと、もしくは長期休み毎に開いて、個別の指導計画をもとに今現在の情報や当面の手立ての共有化を図り、2者（3者）で連携を確認する。

2 通級による指導の重点項目

- (1) 課題の諸要因を的確に把握し、個々の児童の特性に応じた適切な指導・助言を行う。
- (2) 課題に伴って二次的に生じる精神面・情緒面の問題も重視し、児童の内面への支援を行う。
- (3) 保護者及び在籍学級の担任との連携を密にして、指導の一貫性を図る。
- (4) 適切かつ効果的な指導を行うために、関係諸機関との連携を積極的に図る。
- (5) 発達障害のある児童の教育に対する理解を高めるため、その啓発に努める。

④生徒指導の充実

1 生徒指導部による指導の推進

- (1) すべての教職員の共通理解のもと、指導を行う。
- (2) 基本的生活習慣を定着させる。（無言掃除、挨拶・返事、廊下歩行）
- (3) 学校の決まりや重点化した生活目標を徹底させる。
- (4) いじめ、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を図る。
 - 月ごとの生徒指導協議会・教育相談会を実施する。（問題行動や支援の必要な子等の情報交換）
 - すっきりニコニコアンケートを実施する。（いじめの未然防止、早期発見）
 - 休業日前日の生活指導。（問題行動の未然防止）
 - ケース会議の実施及び保護者との密な連絡。（いじめ、問題行動の早期対応、再発防止）
 - 児童とじっくり向き合うことができる学級経営を図る。学校全体での協力態勢を構築する。
- (5) 通信機器を使ったトラブルの防止
 - インターネットのSNSや動画サイトで発生するトラブルについて保護者に知らせる。
 - 家庭で通信機器（音楽プレーヤー・ゲーム機）利用についての約束事を決めるよう推進し、トラブルや生活の乱れをなくすための取組をPTAと協力しながら行う。
 - 児童・保護者に向けて携帯電話やスマートフォン等の取り扱いに関する情報モラル教育を推進する。（データの慎重な取り扱い、悪質な書き込みの禁止等）

2 生徒指導について

- (1) 約束の徹底
 - 年度当初に「春日っ子の約束」を全職員及び全児童に配布し、学校のきまりや約束事の共通理解を図る。
 - 長期休業前には、必ず生徒指導部作成の「よい子のくらし」（佐賀市小・中学校生徒指導協議会のきまりを含む）をもとに学級で指導を行う。それにより、問題行動の未然防止に努める。
- (2) 基本的生活習慣の向上
 - 学級経営に生かせるように学校目標をもとに、月別の生活目標をきめて、児童の基本的生活の向上に

取り組む。

(3) 実態把握

○観察やアンケートをもとに学級の児童の様子を把握し、いじめや問題行動の未然防止、早期発見に努める。また、いじめや問題行動を発見したときは、生徒指導部と連携をとり、管理職も含めた対応グループを構築し、児童への対応やその保護者への対応について話し合い、早期に対応できる体制を整える。

○児童の話をしっかり聞き、客観的に判断できるように努める。

(4) 情報交換の場の設定

○月ごとの生徒指導協議会・教育相談会で、校内・校外の児童の様子や支援が必要な子についての情報交換を行い、児童理解に努める。

3 学校不適応児童への適切な対応

(1) 生徒指導協議会・教育相談会の他、こまめに情報交換を行い、児童理解に努める。

(状況や対応等の共通理解をする)

(2) グループローラー作戦の取組、及びきめ細かな指導の実施。

(3) スクールカウンセラーの利用を保護者、児童に呼びかける。

スクールソーシャルワーカー、こども家庭課等の専門機関、関係機関と密に情報を共有し、連携を図る。

(4) 児童の家庭と密な連絡をとる。(担任、担当者及び関係者等)

4 校区外の非行防止、事故防止

(1) 関係機関・団体や地域との連携の中で、子どもの安全を守る働きかけを進める。(大和中校区小中連携会議[生徒指導部会]大和中校区PTA連絡協議会、春日校区まちづくり協議会他)

5 緊急時の連絡方法の確立

(1) さがんメール(学校情報携帯メール)を用いて保護者へ連絡する。

(2) 保護者のさがんメール登録率の向上を図る。

⑤人権・同和教育の充実

1 人権・同和教育について

教育活動全般を通して、互いの人権を大切にし、差別に対する正しい認識を深め、差別を許さず、真理と平和を愛する心豊かな児童の育成をめざす。

(1) 学力の保障

人権総合学習の取組により、児童一人一人が主体的に学び、明るく楽しく学校生活を送れるようにする。

(2) 一人一人の違いを認め合い支え合う授業づくり

支援をより多く必要とする児童を中心に据えた学級づくりに取り組む。Q-Uテストを活用する。

(3) 人権集会

温もりのある学校にするために一人ひとりの人権を大切にする気持ちを全校で持つようにする。

(4) 差別を許さない集団づくり

「いじめ・いのちを考える日」の取組とつなげ、仲間づくりの視点で道徳などの授業に取り組む。

(5) 研修

大和教育集会所での現地研修会や諸行事への全員参加や各研修集会への参加などによる学習を積み教育実践へつなげる。

2 多様な人権課題について

(1) 職員の意識向上と認識の共有化を図る。

男女平等教育を推進するためには、指導者がジェンダー(社会的・文化的な性差)に敏感な視点を持たねばならない。そのために、男女共同参画や多様な性についての職員研修を計画的に実施する。

(2) カリキュラムの作成と実践

保健体育、学級指導、道徳等の教科と関連させ、児童の発達段階に合わせた活動を計画し、実践する。

(3) 保護者への情報発信

保健だより等を通じて「男女の性」「性的少数者」等の学習した内容を紹介したり、情報教育と関連させてWebサイトによる有害情報に適切に対処する方法を保護者に向けて発信したりする。

⑥グローバル時代に対応する外国語教育の充実

1 目的

- (1) A L Tを活用し、英語に親しみ、コミュニケーションを大切にさせる。
- (2) 積極的に外国人とコミュニケーションを取ろうとする意欲と行動力を育てる。
- (3) 人種や民族の違いにとらわれることなく、同じ地球に生きる市民としての意識を育てる。
- (4) 中学校の英語教育に対する児童の不安感を解消する。

2 内容

- (1) 新指導要領へ移行し、「教科 外国語」を5・6年生で年間70時間、外国語活動を3・4年生で年間35時間実施する。
さらに、1・2年生も年間5時間未満をメドに、教育課程外の余剰時間を活用してA L Tとのふれあいの時間をもち、外国人や文化、英語等に触れる経験をさせる。
- (2) A L Tは、児童とのふれあいのために給食の時間に児童と一緒に給食を食べるようにしている。6年生から順に学級をまわり、児童とふれあうと共に文化の交流も行っている。

⑦情報教育の充実

- (1) 携帯電話（スマートフォン）やインターネットの利用など情報リテラシーの習得を推進すると共に、道徳教育を始めとするすべての教科の中で、情報モラル・マナーなど人権を大切に授業に取り組む。
- (2) 電子黒板の操作法やインターネットの活用方法について、各教科の年間指導計画に位置づけ体系化を図る。
- (3) 通信機器（携帯電話、スマートフォン、音楽プレーヤー、ゲーム機）の使い方についてP T Aと連携しながら使用の仕方について指導をはかる。また、県警や専門家を招聘し講演会等を開催する。

(4)各教科等

各 教 科	国語	(育成すべき資質・能力) 言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、 解決意欲や必要感をもたせるような学習課題を工夫する。 ○知識・技能の確実な習得のために、 繰り返し音読をさせたり、漢字や言葉の力をつける問題集等で練習をしたりする。
	社会	(育成すべき資質・能力) 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、社会的事象に対して追及したり、解決したりしたいと感じるような学習課題を設定する。 ○知識・技能の確実な習得のために、社会との関わりを意識して学習の課題を追及・解決する学習の充実を図る。
	算数	(育成すべき資質・能力) 数学的な見方・考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、「つかむ」「見通す」「考える」「まとめる」「振りかえる」という学習過程を全校で統一し、学習の流れを身に付けさせる。 ○知識・技能の確実な習得のために、プリントや問題集で基礎的・基本的な計算の練習を繰り返す行う。

理科	<p>(育成すべき資質・能力) 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、身近な事物・現象について、児童が興味や疑問を持つような学習課題を設定する。 ○知識・技能の確実な習得のために、目的意識を持たせた観察・実験を行わせ、結果から考えられることを自分の言葉で伝え合い、結論を確認する活動を取り入れていく。</p>
生活	<p>(育成すべき資質・能力) 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、児童に思いや願いを持たせさせるような環境づくり、学習課題の工夫をする。 ○知識・技能の確実な習得のために、気づいたことを伝え合い交流したり、振り返って捉え直したりして表現する活動を設ける。</p>
音楽	<p>(育成すべき資質・能力) 表現や鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、学習の見通しをもたせ、めあてをはっきりさせて、友達と協力して音楽を作り、発表会などのゴールに向かって学習を進める ○知識・技能の確実な習得のために、児童の実態に即した曲を選び、歌唱、リコーダー演奏、リズム打ちなどを常時活動として取り入れ、繰り返し練習の機会を設ける。音楽記号や用語等の掲示物を常時掲示し活用する。</p>
図画 工作	<p>(育成すべき資質・能力) 表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、教材の魅力やおもしろさを児童に伝え、児童一人ひとりが作品に対する思いや考えをもち、楽しみながら表現や鑑賞ができるようにする。 ○知識・技能の確実な習得のために、児童の実態に合わせた教材や用具を選び、表現の仕方を示したり試行錯誤させたりしながら、自分で表現の工夫ができるようにする。</p>
家庭	<p>(育成すべき資質・能力) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、学習の見通しをもたせたり、生活から課題を発見し解決方法を考え実践する学習過程を工夫したりする。 ○知識・技能の確実な習得のために、日常生活と結びつけて理解させたり、技能のチェック表を活用したりする。</p>
体育	<p>(育成すべき資質・能力) 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力 (指導の重点) ○主体的に学びに向かうために、全ての児童が楽しく、安全に運動に取り組めるように場の設定や教具、ワークシートを工夫する。また、運動や健康に関する課題を発見させ、その解決を図らせる主体的、協働的な学習活動を行っていく。 ○知識・技能の確実な習得のために、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」と関連付け、友達と対話し協力して課題を解決していく学習活動を仕組んでいく。</p>
外国語	<p>(育成すべき資質・能力) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・</p>

		<p>能力 (指導の重点)</p> <p>○主体的に学びに向かうために、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定を工夫する。</p> <p>○知識・技能の確実な習得のために、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする活動を仕組む。</p>
	<p>特別の 教科 道徳</p>	<p>(育成すべき資質・能力) よりよく生きるための基盤となる道徳性道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度 (指導の重点)</p> <p>○価値に対する自分の現時点での考え方、思いを表出する能力</p> <p>○他の人の考えを受け止め、自分の意見との違いを見つける能力</p> <p>○より良い人間関係等を築いていくためにどのような考え方をした方が良いのか、考える柔軟な資質</p>
<p>外国語 活動の 時間 (3,4年生)</p>		<p>(育成すべき資質・能力) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力 (指導の重点)</p> <p>○主体的に学びに向かうために、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定を工夫する。</p> <p>○知識・技能の確実な習得のために、自分のことや身近な物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を仕組む。</p>
<p>総合的な 学習の 時間</p>		<p>総合的な学習の時間では、身近な「ひと」「もの」「こと」との出会いを通じ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考える子どもを育てることを目標とする。</p> <p>1 育てたい資質</p> <p>【知識及び技能】 地域の人、もの、ことに関わる探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けさせると共に、地域の良さを知り、それらは人と人が関わり合い工夫しあって築かれていることに気付く。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 問題意識を持って地域の「ひと」「もの」「こと」に関わり、主体的に課題を見出してその解決に向かい、情報を収集、整理・分析し、集めた情報をもとに解決方法を考える力を身に付けるとともに、考えたことを分かりやすくまとめ、表現する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう態度・人間性等】 地域の「ひと」「もの」「こと」についての探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、進んで社会に参画しようとする態度を育てる。</p> <p>2 学年の主な内容</p> <p>(1) 3年「大和太鼓・名尾和紙・白玉まんじゅう・大和町の野菜・果物【大和太鼓指導者、名尾和紙工房、ときわ家】」 大和町の名物や特産物、自慢を通して大和町の良さを知る。</p> <p>(2) 4年「ロザリオの園訪問、高齢者理解・交流、1/2成人式」 将来像を描き、目標に向けて努力することを学ぶ。</p> <p>(3) 5年「キッズマーケット【NPO法人鳳雛塾】、6年生に向かって」 ○働くことの楽しさや苦勞を学ぶ。 ○下級生や6年生、学校のためにできることを考え、よりよい6年生を目指す。</p> <p>(4) 6年「平和学習、職業人にインタビュー【NPO法人鳳雛塾】、芸術鑑賞」 自分の夢の実現に向けての意識を高めていく。 ○平和についての調べ学習 ○自分らしさと人との関わりを考える長崎への修学旅行 ○人とのつながりや互いを尊重する「人権集会」 ○ふるさと学習 ○「ようこそ先輩」に中学生を招聘 ○キャリア教育として、様々な職業について調べ、その内容と必要な資質について調べ</p>

	る「12歳のハローワーク」
特別活動 (学級活動)	<p>児童に出番を与え、その役割を最後までやり抜くことで充実感と自信を持たせる。さらに、教師や他の児童からの承認により、自己肯定感を高め、進んで活動する児童を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学級活動 係活動、学級会等で自主的・実践的な活動をさせる。 2 児童会活動 代表委員会・委員会活動・児童集会を計画的に実践させる。 3 クラブ活動 外部講師を入れる。個性を伸ばし、創意工夫をさせる。 4 縦割り班活動 「なかよしタイム（縦割り班遊び）」を行い、異年齢集団の人間関係を育てる。 5 学校行事 運動会・遠足・春日っ子ワクワク祭り・儀式等に児童の役割を設定する。
キャリア教育	<p>児童の将来の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で夢や目標をもって自分らしい生き方を実現していくための力を、教育活動全体で身につけさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力について <ol style="list-style-type: none"> (1) 「人間関係形成・社会形成能力」 基本的マナーを身に付け、いろいろな人の考えや気持ちを理解し、自分の考えを伝えることができるとともに、友だちと協力・協働して学校生活に参画することができる力。 (2) 「自己理解・自己管理能力」 基本的生活習慣を身に付け、自分自身についての理解を深め、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために主体的に行動することができる力。 (3) 「課題対応能力」 様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立て、試行錯誤しながら方法を駆使し、その課題を解決することができる力。 (4) 「キャリアプランニング能力」 「働くこと」「学ぶこと」の意義を理解し、学んだことを使っていく態度を身に付け、また、自らが主体的に自分の生活、学習方法について考え、取り組むことができる力。 2 内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各教科等（道徳、総合的な学習の時間、特別活動を含む）を通じた日々の学び 教科の授業において、春日っ子授業スタイルのもと、その授業のねらいを達成するだけではなく、各教科の年間教育計画にキャリア教育の視点を位置付け、キャリア教育を通してはぐくむ基礎的・汎用的能力の育成にもつなげる。 (2) 地域・社会の人とのかかわりを通じた学び 身近な人々の仕事や地域に生きる人々との出会いの中で、その人の仕事に対する誇りやこだわりについて気づかせ、自己実現に向けて努力することのすばらしさを感じることでできる場を計画的に設定する。以下に、かかわりの対象を挙げる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 全学年 交通安全指導で警察官や交通安全指導員の方々と交通安全について体験的学習を行う。 ② 1年生活：畑を借りて野菜づくり【地域の高齢者】 ③ 2年生活：町探検【商店・役場・交番等の公共施設】 ④ 3年総合：大和太鼓【大和太鼓指導者】、名尾和紙【名尾和紙工房】、白玉まんじゅう【ときわ家】、大和町の野菜・果物 社会：スーパーマーケット見学【マックスバリュー】 道徳：思春期教室【助産師】 ⑤ 4年社会：水ものがたり館、環境センター、消防署・警察署・水道局の見学（ふるさと支援事業を活用）、総合：ロザリオの園訪問、1/2成人式 ⑥ 5年総合：キッズマート【NPO法人鳳雛塾】 ⑦ 6年国語：説明文教材「プロフェッショナルたち」 社会：吉野ヶ里遺跡歴史公園見学、大隈重信記念館・佐野常民記念館・三重津海軍所跡・県立博物館等を見学（ふるさと支援事業を活用） 総合：職業人にインタビュー（NPO法人鳳雛塾）、芸術鑑賞 3 自己の成長を感じるためのポートフォリオの活用

	<p>学びのあしあとを残し、自己を振り返ることができるように「キャリアパスポート」を活用する。新たな学習や生活、将来の生き方を考えるために、学期や特定の行事ごとに目標、振り返りを記入する。</p>
環境教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境教育担当者を中心に年度初めに環境教育キックオフ宣言を行い環境保全についての意欲を持たせる。 2 校内の無言掃除を徹底指導し、環境保全・美化への意識高揚に取り組む。 3 リサイクル活動やボランティア活動に取り組み、環境を守る活動を進め、他教科や総合的な学習の時間でも環境のことを考えた活動を実践していく。 4 I S O教育の一環として、電気調べを行い、節電への関心を高め実行させていく。 5 校内花いっぱい活動を推進し、校内環境を豊かにする。
読書指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 読書環境の充実 ホップなどの掲示物やおすすめの本のコーナーを充実させる。 2 朝の時間の活用 毎週金曜日に「朝の読書の時間」を設定し、全校一斉に読書に親しむ時間を持つ。毎月一回朝の読書の時間を使って、1～3年生に地域の読書ボランティアによる「お話し会」を実施する。 3 貸し出し目標冊数の設定 学年の目標冊数を、1・2年生は120冊、3・4年生は100冊、5・6年生は80冊と設定し、達成した児童の名前を掲示することで読書意欲を高める。 4 委員会活動との関連 図書委員会を中心として年2回の読書週間の活動を充実させる。 5 図書館だよりの発行 毎月図書館だよりを発行し、新刊の紹介やおすすめの本のリストを読破した児童の紹介を行い、読書意欲を高める。なお、図書館だよりは児童名を隠して学校ホームページにも掲載し、地域の方々や学校に関心を持っていただける方に図書館の活動を知ってもらうようにする。
食に関する教育	<p>食に関する様々な機会を利用し、栄養バランスのよい食事をとることや朝食をとることの大切さについての指導を継続して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食に関する教育重点目標 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食事の大切さがわかり、望ましい食習慣を身に付けさせる。 (2) 3つの食品群の働きを知り、バランスよく組み合わせて食べることの大切さを理解させる。 (3) 楽しい雰囲気の中で、残さず何でも食べるように指導する。 2 具体的な指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食に関する年間指導計画に基づき、各指導の手引きや給食部会で作成された実践報告を活用して、学級指導や関連の教科や日常的な給食の場面で、朝食の大切さ、マナー、栄養のバランスなどの指導を行う。 (2) 担任と栄養教諭のTTによる指導を行う。参観日に保護者参加の授業を行い、家庭や地域への啓発や連携も進める。 (3) 献立は、現代の児童に不足しているビタミン、鉄分、食物繊維の摂取に重点を置いたものにする。また、なるべく国産や県産・佐賀市産物の食材を使用した献立を提供する。特に、佐賀市産の中でも大和町で採れた野菜を取り入れる。さらに、メニューとして和食の献立を多めにし、郷土料理やこどもの日、月見、節分等の行事食、世界の料理など話題性のあるメニューを取り入れる。 (4) 食物アレルギーのある児童の共通理解をし、緊急時対応等について研修を行う。
教育課題への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 読み書きの力、基本的計算能力の確実な習得 (SDGs 4-6) (1) 授業改善と家庭学習の徹底 授業内容に応じた家庭学習の課題を出し、間違い直しまでを徹底する。 児童の実態に応じた課題を出す。(学習プリントの充実) (2) 実態把握と情報共有 日常の学習状況、業者テスト、学習状況調査、CRT などをもとに実態を把握し、一覧表にまとめ実態把握と情報共有を行う。経年での状況把握を行い、確実に力を付けるようにする。